

科目名	スポーツ実習 2						年度	2026	
英語科目名	Sports 2						学期	後期	
学科・学年	A I システム科 2年次	必/選	選	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	小林彰人、圓崎祐貴、尾形祐樹、三澤光喜	教員の実務経験		無	実務経験の職種		—		

【科目の目的】

生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に付けながら、自己管理能力の育成、集団生活の体験からルール・マナーの学習やコミュニケーション能力を培うことを目的とする。

【科目の概要】

さまざまなスポーツを体験し、人間力を高める。

【到達目標】

習得した滑走技術を駆使し、あらゆる雪質や斜面を安全に滑走できるようになる事を目標とする。初心者は、両スキーが平行に回転する感覚を身につけ、最終的には初歩的なパラレルターンができるようになる事を目標とする。中・上級者は、一定のスピードで自分の回転弧を自由に調節し、あらゆる斜面でパラレルターンの大回り和小回りができるようになる事を目標とする。また、集団生活により学年・クラスを超えた人間関係を構築する。

【授業の注意点】

各自、自己のスキルにあったスキー・スノーボードスクールのコースを事前に選択すること。コース選択時に決して無理のないコースを選択するようにし、各コースのインストラクターの指示の元、安全な滑走に努めること。自由滑走時には、必ず数名のグループで行動し、決して単独行動をすることがないようにする。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は単位として認定することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	—	—	スクールに参加して滑走技術の習得に取り組んだ。	—	スクールに参加して滑走技術の習得に取り組まなかった。
到達目標 B	—	—	自由滑走で滑走技術の習熟に努めた。	—	自由滑走で滑走技術の習熟に努めなかった。
到達目標 C	—	—	集団生活ではルール・マナーを守り生活を送った。	—	集団生活ではルール・マナーを守れなかった。
到達目標 D	—	—	—	—	—
到達目標 E	—	—	—	—	—

【教科書】

配布資料

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

授業内容の理解度、実施内容について評価する。積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		スポーツ実習 2			年度	2026
英語表記		Sports 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	事前説明 オリエンテーション	実習内容、共同生活、注意事項などを確認する	1 実習内容	スケジュールを含めた実習内容の理解	2	
			2 共同生活	共同生活を送るためのルール・マナーの理解		
			3 注意事項確認	実習全般の注意事項の理解		
2	スキースノーボード スクール	各自のスキルに合った到達目標技術の習得をする	1 滑走技術	自身のレベルに合わせた滑走技術を習得	2	
3						
4						
5	自由滑走(1)	スクールで学んだ滑走技術を習熟する	1 滑走技術の習熟	スクールで学んだ滑走技術	2	
6						
7	自由滑走(2)	スクールで学んだ滑走技術を習熟する	1 滑走技術の習熟	スクールで学んだ滑走技術	2	
8						
9	自由滑走(3)	スクールで学んだ滑走技術を習熟する	1 滑走技術の習熟	スクールで学んだ滑走技術	2	
10						
11	自由滑走(4)	スクールで学んだ滑走技術を習熟する	1 滑走技術の習熟	スクールで学んだ滑走技術	2	
12						
13	自由滑走(5)	スクールで学んだ滑走技術を習熟する	1 滑走技術の習熟	スクールで学んだ滑走技術	2	
14						
15	まとめ	実習の振り返り	1 アンケート	実習を通じて得た学びを確認	2	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等